

プチドを抗原にしてこれら6種類の α 鎖を識別するラットモノクローナル抗体を作製した。これらの抗体は抗GBM抗体の原因抗原である4型コラーゲンの解析に役立ったばかりではなく、4型コラーゲンの遺伝性疾患であるアルポート症候群の診断をも可能にした。広く生命科学の研究に役立つと思われるこのラットリンパ節法も合わせて紹介する。

※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※

第32回岡山実験動物研究会

平成8年11月29日(金)午後1時からルネサンス岡山(ギャラリー・ルネサンス)において、岡山県新技術振興財団との共催で開催された。

はじめに会長の栗本雅司所長(株林原生物化学研究所・藤崎研究所)から開会の御挨拶があり、その後、特別講演に移った。

特別講演(1)は「大型ウサギの実験動物化に関する研究」と題して秋田大学医学部の松田幸久先生が講演された。この司会は倉林謙先生(岡山大学医学部)が担当された。

特別講演(2)は「コラーゲン遺伝子改変と動物疾患モデル」と題して岡山大学医学部の二宮義文先生が講演された。この司会は内藤一郎先生(重井医学研究所)が担当された。

2題の特別講演が終了した後、休憩をとり、その後、事務局から会務報告があった。

その内容を要約すると、①平成8年度の活動報告(第31回研究会の開催、会報13号の発行、役員を選任、理事会・常務理事会の開催)について、②平成8年度の会計中間報告(平成8年1月1日～11月27日)について、③第33回の研究会の開催予定について、④研究会報(第14号)の発行について、などであった。

会務報告後、直ちに特別講演(3)に移った。この特別講演の演題は「マスト細胞分化異常動物」で、大阪大学医学部の北村幸彦先生が講演された。この司会は国枝哲夫先生(岡山大学農学部)が担当された。

この会には約70名の参加者があった。会終了後、同会場で講師の先生方を囲んでの懇親会が開かれ、名誉会員の矢部芳郎先生、県外からも会員の柴原壽行氏、三上博輝氏が御出席された。会長の栗本雅司所長の開会の御挨拶に続いて、名誉会員の矢部芳郎先生に乾杯の音頭をとっていただいた。懇親会場のカフェ・ルネサンスは9月にオープンしたばかりで、落ち着いた、ムードある大変素晴らしい所で、なごやかな雰囲気の中で会員相互の親睦を深めた。この会場を設営していただいた株林原生物化学研究所の栗本雅司所長はじめ関係者の皆様方に心より厚く

お礼申し上げます。

特別講演会

平成9年3月6日(木)午後3時から岡山大学農学部において、Swiss Federal Institute of Technology教授のDr. Gerald Stranzingerを招いて特別講演会が開催された。Dr. Stranzingerは文部省招聘研究員として来日中のところ、重井医学研究所の沖垣達所長の取りはからいにより、岡山実験動物研究会での特別講演会が実現した。

当日は“Recent cytogenetic investigations in livestock in Europe an overall view”との演題で1時間にわたって講演があり、司会は岡山大学農学部の国枝哲夫が担当した。講演は細胞遺伝学の基礎から、最近のヨーロッパにおける家畜ゲノムプロジェクトの概要、臨床的に見いだされた染色体異常と疾患の関係にわたる広範な内容のものであり、講演終了後に質疑応答が行われた。

本特別講演会には岡山大学学生を含む多数の参加者があり、盛会のうちに終了した。

※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※

平成8年度理事会報告

平成8年度の理事会は2回開催された。第1回目は6月29日(土)12時30分から13時まで川崎医科大学附属図書館で、第2回目は11月29日(金)12時から12時40分までカフェ・ルネサンス(ルネサンス岡山)で行われた。

第1回理事会

①平成7年度の活動報告：岡山県新技術振興財団との共催による2回(第29回、第30回)研究会の開催、第12号の研究会報の発行、常務理事会の開催(5月12日と9月19日の計2回)の報告があった。

②平成7年度の会計報告：平成7年度(1月1日から12月31日)の収入、支出、残高の状況について報告がなされ、中永征太郎先生、河本泰生先生の監事によって5月23日会計監査がなされた。

③平成8年度の活動計画：第31回の研究会は本日(6月29日)川崎医科大学において開催され、また、第32回の研究会は12月上旬にいずれも岡山県新技術振興財団との共催で開催される予定であることが報告された。具体的な開催日時、内容については後日常務理事会で検討することが了承された。

第2回理事会

①平成8年度の活動状況：第31回研究会が川崎医科大学で開催され、また第32回の研究会が本日(11月29日)、ギャラリー・ルネサンスでいづ

れも岡山県新技術振興財団との共催で開催されていること、第13号の研究会報が発行され、10月に会員に送付されたことが報告された。

②役員の選任：会則第7条（役員の選任）、第9条（役員の任期）に基づき、平成9～10年度の役員の選任について討議し、その案について第32回研究会の総会で承認を受けることになった。なお、役員については本会報の「組織・会則」を御参照ください。

③平成8年度会計の中間報告：平成8年1月1日から11月27日までの収入、支出、残高状況について中間報告があった。

④次回（第33回）の研究会の開催：平成9年6月ごろに会員持ち回りの会場（農学部）で一般講演を中心に開催することが討議された。

⑤第14号の研究会報の発行：会報は従来のスタイルで9月頃に発行する予定であることが報告された。

「岡山実験動物研究会の会費に関する内規」

（趣旨）

第1条 この内規は、岡山実験動物研究会の会費に関し必要な事項を定める。

（会費の目的）

第2条 岡山実験動物研究会の円滑な運営のために、正会員ならびに賛助会員は、定められた会費を納入する。

（会費の金額）

第3条 会費は、年会費とし、金額は下記の通りとする。

1. 正会員 1,000円
2. 賛助会員 30,000円（一口）

（会費の納入）

第4条 会費は、郵便払込通知票、現金などで年度ごとに納入する。

（会費の免除）

第5条 名誉会員は、会費が免除される。

附則

この内規は、昭和59年12月8日から施行する。